



## 私たちのふるさと、柳津町

柳津町長 小林 功

私たちの柳津町は、日本三虚空蔵の一つとされる、名刹「福満虚空蔵菩薩圓藏寺」を中心に「信仰の里」として栄えてきた歴史ある町です。全国的に有名な「赤べこ」は約四〇〇年前に福満虚空蔵菩薩圓藏寺の建て替えのとき、難工事を手伝ってくれたという伝説があり「赤べこ発祥の地」と言われています。また、福満虚空蔵菩薩圓藏寺では、毎年一月七日に奇祭「七日堂裸詣り」が行われています。

町を縦断し、ゆったり流れる只見川と山々の深い緑が美しい景色を織りなしています。四季を彩る美しい自然は町の宝です。

町の中心街には「柳津温泉」があり、またそこから十キロメートル程離れたところに湯治場の雰囲気漂わす「西山温泉」があり、県内外から毎年多くの観光客が訪れ、親しまれています。

このような古い歴史と伝統を持ち、自然環境に恵まれた柳津町では、「皆、健康で幸せを実感できる町」を目指して、健康づくりの推進、子育て支援の充実、農業・観光業を軸とした経済の活性化、生活環境の整備など力強く推進しています。

この要覧は、今の柳津町の姿と将来へのビジョンを紹介しています。皆様に柳津町をより深くご理解いただく一助になれば幸いです。

《圓藏寺》  
夕鐘と湯けむりと……………2

まちをいろどるモノ語り……………6  
コラム◆町を学ぶ／町の魅力を広く発信 やないづ検定

《柳津温泉》  
只見川より育まれしまち……………8  
コラム◆町を学ぶ／柳津町観光ボランティアガイド

目次  
斎藤清美術館……………10  
道の駅会津柳津……………12

観光物産館 清柳苑  
憩の館ほっとinやないづ  
柳津町「エグルメ」博士そば「会津柳津ソースカツ丼」  
《やないづ縄文館》  
縄文の息吹が伝わる……………14

《西山温泉》  
「神の隠れ湯」と呼ばれる  
開湯千三百年の秘湯……………15  
コラム◆町を学ぶ／久保田三十三観音

《柳津西山地熱発電所》  
大地のめぐみ 豊かな地熱をエネルギーに……………16  
《旧経井沢銀山》  
大地のめぐみ 時代に光芒を放った銀産出鉱……………17

柳津の暦……………18

施策の概要……………19  
産業／健康・福祉／生活環境／教育・文化／行政・議会

町の歩み(年表)……………26  
柳津町地図……………31

赤べこ発祥の地



やないづ、祈りのさと  
川畔に花開く歴史の町



## 夕鐘と湯けむりと

会津西部にあつて悠久の時を刻む只見川。尾瀬を水源にする多雪のもたらす豊富な水と、源流からの高低差に水力エネルギーへの期待が高まり建設された流域複数のダムは、戦後復興期から首都圏の電力を支え続けています。

永い時をかけてこの川の流れがつくりあげた河岸段丘には、縄文期より生活の場を求め、暮らしを営んできた跡が数多く残ります。5千年かけ広がってきた流域集落のうち、独特の発展を遂げて来たのが私たちの柳津町です。

平安期、会津に仏教の教えをもたらした徳一大師により開創されたと伝えられる福満虚空藏菩薩圓藏寺。古くよりの尊崇を集め、時の為政者の庇護下にあつて、さまざまな災害に遭いながらも再建を重ねつつ、幕末まで寺領200石の規模を誇りました。

巖上にそそり立つお堂から夕空に響き渡る梵鐘の音は、私たちの深い心のよりどころともなっています。圓藏寺門前はたいへん賑わい、明治期には軽井沢銀山の、昭和初期には只見線の開通と幾度となく活性期を迎え、現在にいたります。昭和期には温泉をひいたことで「門前の湯けむりのまち」として魅力が加わり、寺の名とともに広く知られることとなりました。





只見川を見下ろす、崖上の舞台が珍しい圓藏寺菊光堂は、創建以来、水難・災難・地震と幾多の災害に見舞われており、記録に残るだけでも8回再建され、現在の建物は文政12（1829）年に建てられたものです。二重唐破風の大伽藍には数多くの奉納額が納められ、堂内の巨大な鰐口は毎年1月7日に執り行われる「七日堂裸詣り」で下帯一本の男衆が福を求めて先を争い登る姿とともに有名。



川対岸よりこの菊光堂に向けて発砲。その弾痕は、いまも腰板に残っており激戦のようすを今に伝えています。



「十三講詣り」は数え13歳の子どもたちが、厄払いを兼ね福と智が授かるように参拝します。また、毎年8月10日は先祖の遺徳を偲び、大法要や稚児行列が行われます。夕闇迫る頃には灯籠を流し、盛大に打ち上げられた大輪の花火が夜空を彩ります。

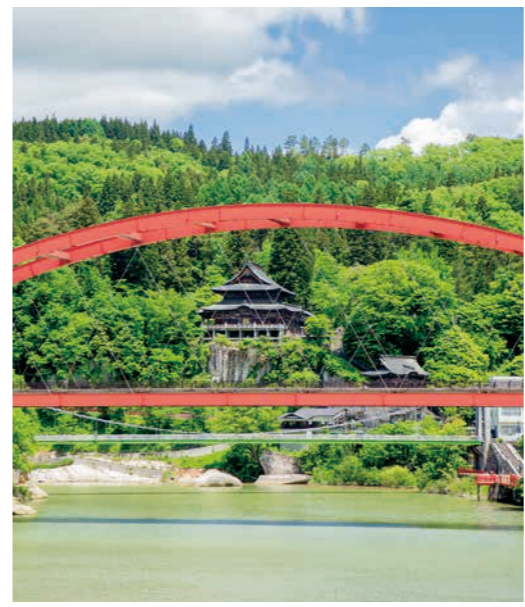


## 福満虚空藏菩薩圓藏寺 日本三所之一虚空藏菩薩

日本三所之一虚空藏菩薩に数えられる圓藏寺は、その開基古く、大同2（807）年とされています。

弘法大師作と伝える福満虚空藏菩薩を御本尊とし、江

戸時代には徳川家の永代祈願所にも定められました。篤い信仰が寄せられたことは、「葵御紋」が寺紋として下賜されたことからもうかがい知れます。



寺には仁王門や鐘楼、寄進されたさまざまな建立物などが点在しています。

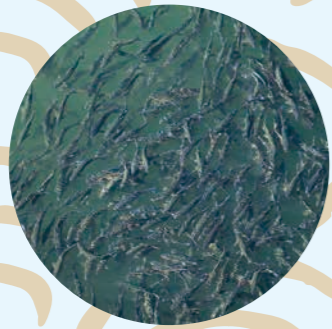




**魚淵** うおぶち

圓藏寺御本尊・福満虚空藏菩薩は、唐の国から只見川に流れ着いた霊木より弘法大師が虚空藏菩薩像を彫つたものと伝えられています。その時の木くずがウグイに姿を変えたといわれており、このことからウグイを「霊魚」として尊び、昔から大切に保護されてきました。

体長30センチほどのコイ科のウグイが大群で見られる生息地「魚淵」は国の天然記念物に指定されています。銀山川と只見川が合流する付近は流れが大きく湾曲しているため、水流に侵食され淵のできた部分、只見川に架かる観月橋付近の深いところに棲息しているようです。えさ場で餌付けされていることもあり、比較的気軽に大群を目にすることができます。



歴史を重ねて来た柳津町にはさまざまな由来をもつモノ語りがあります。

大きさはわずか0.2〜3.5センチ。掌どころか指先にも乗せられるほど小さな小さな御仏たち。この微細彫刻の歴史は、かなり古く、天正6(1578)年に遡ります。『柳津圓藏寺秘録』によれば、当時の住職・富山西堂和尚が安土城で織田信長に謁見した帰途、クルミの殻に納められた4体の御仏を拾い、それを持ち帰って作られたのが始まりと伝えられています。

### 微細彫刻

びさいちょうこく



ルーペを覗きながら精細な彫刻を施すのは金坂富山氏。ツゲや白檀から彫り出す虚空藏菩薩や阿弥陀如来、不動明王、七福神があればゴマ粒に彫られた御仏もあり、それぞれクルミや銀杏、モミ殻などの厨子に納められています。いつとき技の絶えた微細彫刻を復活させたのは富山氏の父・富仙氏でした。圓藏寺のお膝元に工房を構え、その技術を受け継いで製作を続けています。



門前町で立ち上る湯気もゆかしい「あわまんじゅう」。かつてはその名の通り粟を主原料に使っていましたが、現在は食感の良い餅米メインにシフト。粟を模したツブ感と、もっちりした口当たり優しい甘さの餡がほどよくマッチし、柳津の名物みやげとなっています。



## まちを いろいろ モノ語り



### あわまんじゅう

200年ほど前の文政元(1818)年、福満虚空藏菩薩と門前町かいわいが大火に見舞われました。当時の住職・喝巖和尚は2度と災難に「アワ」ないようにとの願いを託し、粟でこしらえた饅頭をつくり、御護符として配ったものがその始まりと伝えられています。

平成27年に柳津観光協会がスタートさせたご当地検定「てくてく歩いてやないづ検定」。検定を通し新しい柳津の魅力を発見してもらい、ファン層を増やしていこうという意気込みで始められたものです。初級・2級・準1級があり、さらに難しい「会津やないづ歴史検定」1級を実施してきました。これまでに小学生から80代までの幅広い年齢層がチャレンジし、のべ700名近い合格者が誕生しています。

なかでも「会津やないづ歴史検定」1級は、柳津の歴史をひもとく本格的な検定。合格すれば、合格証書認定書・オリジナル赤べこグッズが進呈されるほか、「会津やないづ観光大使」にも任命され、広く柳津の魅力を発信していただいています。



本堂再建のために力を尽くしてくれた赤牛に、感謝の思いと労いをこめ建立されたのが境内にある「開運撫牛」。自分の病んでいる部分を撫でさせれば快癒するともいわれています。以来、赤牛(=赤べこ)は忍耐や力強さの象徴として伝統工芸品の張り子玩具「赤べこ」に姿を移し、ゆらゆらと首を振るユーモラスな姿とともに、長く人々に愛されています。



### 赤べこ伝説

慶長16(1611)年に会津地方を襲った大地震で圓藏寺も大きな被害を受け、現在の高台に本堂が再建されました。工事にあたっては、多くの木材が近隣の村々から寄進され、只見川を利用して運ばれてきました。

そこから巖上まで運ぶのに難儀していたところ、どこからともなく力の強そうな赤毛牛の群れが現われて木材運搬に活躍し、またいずこともなく姿を消したという伝説が残されています。

### 町を学ぶ column

町の魅力を広く発信  
やないづ検定



「柳津温泉」  
只見川より  
育まれしまち

雄大な流れの只見川を見下ろす、景勝の地にある柳津温泉。福満虚空藏菩薩圓藏寺の門前町として広がってきた町は、二期六脇院、三十六坊が建てられ繁栄を誇ったとも伝えられています。参拝客が草鞋を脱いだ宿坊も、いくつかは旅館として今もその名を残します。

西山温泉から引湯していましたが、圓藏寺境内より源泉を求められるようになつてからは、ふんだんな湯が汲み上げられ、それぞれの宿に送られています。ナトリウム塩化物泉の透明な湯は、体を芯から温めてくれる名湯として広く知られるようになりました。



昔懐かしい木造駅舎  
会津柳津駅

昭和の香り漂うレトロなたたずまいが人気の会津柳津駅は、昭和3年に開業。国鉄民営化後も有人駅でしたが、タブレット交換が終了し無人駅になりました。



1か月にわたりロケ隊が滞在し、各所で濃密な撮影が行われました。柳津での撮影がクランクアップした翌日からは、住民の間で「ジヌロス」なる現象が現われたとか…

映画『ジヌよさらば』  
ロケ地

『ジヌよさらば』は、銀行員なのにお金アレルギーになった主人公が、1円も使わない暮らしを求めて田舎へ移住。ひと癖もふた癖もある住民たちとのふれあいから、人生が思わぬ方向へと転がり始める物語。柳津町をメイン舞台に撮影され、町民あげてロケに協力しました。

つきみが丘町民センター

町の高台に建つ眺めのいい公共の温泉宿。最大150名を収容できるホールから15畳の和室まであり、研修や宴会等幅広く活用できます。日帰り入浴で多くの方々にも親しまれています。



大浴場の窓からは、只見川とそこにかかる赤いアーチ橋、そしてその向うに連なる奥会津の山々を一望でき、四季それぞれに時の移ろいを楽しめる、いい湯です。



C 町を学ぶ  
column

柳津町観光  
ボランティア  
ガイド

福満虚空藏菩薩圓藏寺を中心とした町の観光案内をおこなう、ボランティアガイド組織が観光案内所にあります。圓藏寺の歴史やまちなり立ち、観光の見どころなどを丁寧に教えてもらえる好評です。メンバーの皆さんは、地元歴史に詳しいだけでなく、それぞれの得意分野を持つので、さまざまな角度から柳津町の魅力を観光客の皆さんにお伝えしています。



柳津町観光ボランティアガイド協会  
会長 武田 幹雄 氏



齋藤清 (明治40年 - 平成9年)

明治40年、隣接する会津坂下町に生まれる。昭和11年、安井曾太郎の版画作品に触発されて木版画を制作、同年の第5回日本版画協会展に初入選すると、本格的に版画制作に取り組むようになる。昭和26年サンパウロ・ビエンナーレで戦後日本人初の国際展受賞を果たし、以降欧米を中心に各地で個展を開催するなど世界的に活躍。昭和62年に柳津町に移り住んでからも、平成9年に亡くなるまで、この地を拠点に「会津の冬」シリーズをはじめ精力的に創作を続けた。シンプルな構成に、木目など版材のマチエールを活かして、奥行きと深みを加味した唯一無二のイメージは、今もなお多くの人の心をとらえ続けている。



「齋藤清美術館」

晩年を過ごした町に建つ、  
唯一の専門美術館

只見川畔に建つ「やないづ町立齋藤清美術館」。戦後間もない頃から欧米を中心に活躍し、日本現代版画の実力を世界に知らしめた画家、齋藤清の作品を収集・保存・展示する唯一の施設として、平成9年に開館しました。柳津町は、齋藤清が晩年の10年間を過ごした町。美術館の近くにはアトリエも保存・公開されており、往時を偲ぶこ

とができます。  
コレクションは、ライフワークともいうべき「会津の冬」シリーズをはじめとする木版画から、コラグラフ、銅版画、墨画、油彩画、素描に加え、版木や画家愛用の和紙・画具といった貴重な品々も。様々な切り口で作品に迫る企画展を通し、その多彩な魅力を紹介しています。

年4回の企画展では、約60点の作品を出品。内容に合わせて展示方法や配置にも工夫を凝らしています。また年によって開催する特別展では、より多角的に齋藤清の芸術にアプローチするため、過去の巨匠や同時代の芸術家の作品を合わせて紹介することも。



展示室へ向かうスロープの壁面には、柳津町の四季をテーマにした映像作品が、筑波大学 村上史明研究室によるもので、多くの来館者を楽しませています。制作にあたり、学生たちは柳津町に滞在、町民の協力を得ながら取材を重ね、実に7分間におよぶ超大作を仕上げました。

一年を通し、様々な  
ワークショップやコラボ展を開催

生涯新しい表現を追い求め、斬新なイメージを作り出していた齋藤清。美術館もただ作品を紹介するだけでなく、新しいアートとの出会いを提供する美術館を目指して、若手アーティストとのコラボ事業やワークショップなどを行っています。



若手アーティストが美術館内で公開制作を行う「アーティスト・イン・レジデンス」。柳津町の自然や文化、そして齋藤清のイメージにふれることで生み出された作品は、どれもユニーク。美術館内に定期的に展示されており、アートの持つ無限の可能性を伝えています。

観光物産館 清柳苑

奥会津の民家を彷彿とさせる外観の建物が目を引く清柳苑。館内は柳津の名品を揃えた物産販売スペースが訪れる客を出迎え、左奥の食事処では60席を用意し柳津町の二大グルメ「博士そば」「会津柳津ソースカツ丼」を提供しています。ガラス越しに見学できる蕎麦打ち工房では毎日そば打ちをおこなっており、打ち立てそばの提供も自慢のひとつ。喫茶コーナーもあり、ソースカツバーガーや粟ソフトなど軽食も食べられます。



直売所

農家グループの皆さんがそれぞれ生産している、朝採り野菜を並べた農産物直売スペース。雪のないシーズンの4月後半から11月初旬と限られた期間ながら、常に人気で品薄になりがちなコーナーで、夏場の最盛期には外にも売り場が広がります。12月から2月までは、数量限定ながら雪中野菜が入荷。雪の下から掘り出される野菜は甘みも濃くて特に人気があります。



柳津町二大グルメ●その2  
会津柳津ソースカツ丼

テレビでも有名になった会津名物ソースカツ丼。なかでも特徴的な柳津町のソースカツ丼は昭和30年代頃から地元にも広まり始めたメニューです。ご飯の上にキャベツとふわふわ玉子焼きを敷き、揚げたてのカツを乗せてソースをかけるスタイル。煮込んだりソース漬けをしない、カツ本来の衣のサクサクな食感を楽しめま

粟ソフト

香ばしく炒った粟をトッピングしたバニラベースのソフトは、濃厚な味わいが好評です。



柳津ソースカツバーガー

名物ソースカツ丼をハンバーガースタイルで気軽に食べられる軽食メニュー。各地のイベントにも出店し好評を得ています。こちらはソースカツをふわふわ玉子でとじ、パンズでサンドしました。甘辛ソースとジューシーな肉の旨みがパンともいい相性と評判です。



道の駅  
会津柳津

美術館に縄文遺跡の展示、グルメにお土産、足湯など柳津の魅力をつつぷりと詰め込んだ道の駅は、国道252号沿いにあります。

柳津町二大グルメ●その1  
博士そば

柳津町のシンボル・博士山のふもとで高地栽培される風味豊かな十割そば。透き通るような白さとほど良い太さ、なめらかなのど越しが自慢です。そばダレは昔ながらのしっかりとしたつゆで味わうので、その甘みと香りが一層引き立ちます。



撮影：地域おこし協力隊 中川隊員

憩いの館  
ほっとinやなぐい

柳津温泉の源泉を引いた無料の足湯施設がある「憩いの館ほっとinやなぐい」は道の駅北側にある建物で「縄文館」を併設しています。

東屋のついた広い庭園風の足湯は湯底に小石が敷き詰められており、歩くと足つぼが刺激され心地良い。歩き疲れもリフレッシュできるのも旅行者にも人気のスポットです。



六次化産品

菜の花で一面が黄色く彩られるのは6月。柳津町のオリジナルドレッシングはこの菜の花の種から採ったなたね油やたまねぎをたっぷり配合した「塩だれ」、また、果物とはちみつを加えまろやかに仕上げたガーリック風味「焼肉のたれ」など。さらに、町内の農家で栽培から加工までを手がける珍しい素材のジャムも人気商品です。「カスタードアップル」、とも言われる蜜リンゴ入り「ポポージャム」、はちみつ入りの「フルーツほおずきジャム」、「サルナシジャム」の3種類。そのほか、粟にちなんだドレッシングや焼酎も定番人気。



# 縄文の息吹が 伝わる

只見川沿いは、上流から下流にいたるまで、各地で縄文・弥生時代の遺跡が発掘されています。古くから人の暮らしがあったことがうかがい知れ、奥会津は、縄文文化の宝庫ともいえます。柳津町の「石生前遺跡」でも、縄文中期から晩期にかけての遺物や遺構が次々と発見。なかでも火焰型土器は、独特の造形美を誇る考古史料



として貴重といえます。

「憩の館ほつと in やないづ」に併設されている「やないづ縄文館」では、遺跡の柱跡より再現された直径8mの竪穴式住居を復元。発掘場所から移設した複式炉や土器、食糧として狩った小動物などを配して、縄文人の暮らしぶりをかいま見ることができます。



「石生前型」と分類される発掘された土偶類の大きな特徴は、顔の表現がとても豊か。同時期の東日本の土偶でもこれほど精巧に人の顔を表現しているものは発見されていないということです。



昭和62年の発掘調査時の風景



## 「西山温泉」

# 「神の隠れ湯」と呼ばれる 開湯千二百年の秘湯

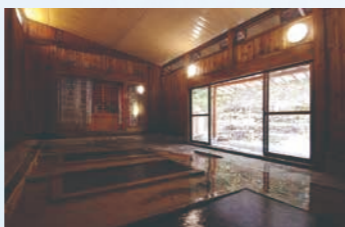
険しい岩肌の山間を縫うように流れる、清流・滝谷川に沿って集落を結ぶ細い生活道路が続きます。柳津の中心部から奥へ奥へとひた走れば、遠く山の向こうに、西山地熱発電所から上がる水蒸気が湧き立つ雲のごとく見え、その麓にある西山温泉郷はひなびた風景も味わい深い秘湯です。そ

の開湯は古く、養老元（717）年にはじめて「神の湯」が発見され、湯の嶽明神が戦の傷を癒した、という伝説が残ります。長い間うちに「神の湯」「下の湯」「中の湯」「滝の湯」「新湯」「荒湯」「老沢」と複数の泉質の異なる源泉が発見され、今日まで大切に受け継がれています。

西山温泉郷は、隠れ湯の情緒たっぷりなのは魅力のひとつ。それぞれ個性ある湯をはしごする楽しみがあります。



昭和40年ごろの風景



# C 町を学ぶ column

## 久保田三十三観音

西山温泉へ行く道より分かれ道を入ると見えてくる久保田地区。「久保田の棚田」と呼ばれる福島県ではまれな棚田風景を望むことができ、山からの湧水を利用して米づくりをしています。グリーンツーリズム事業の棚田オーナー制度にて棚田の畦塗り、田植え、草刈り、稲刈りなどの環境保全も進めています。集落を見下ろす観音山山中には、230メートルの道順に村人によって寄進された39体の石仏群が並び、200年ものあいだ多くの人々の篤い信仰を集めてきました。毎年4月29日には観音まつりも行われています。





## 「柳津西山地熱発電所」 豊かな地熱を エネルギーに

自然が生み出す蒸気を使って発電する地熱発電は、クリーンエネルギーのひとつに数えられています。平成7（1995）年に運転開始した「東北電力柳津西山地熱発電所」は、最大出力が30,000キロワット。一般家庭約5万世帯が消費する出力量です。

# 大地の

# めぐみ

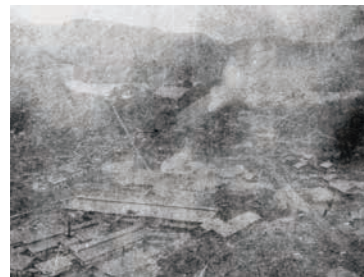
## 「旧軽井沢銀山」 時代に光芒を 放った銀産出鉱

「奥会津の一带はいにしえより、金山谷」と称されるほどに、多種の鉱山資源に恵まれた地でもありました。かつて柳津にも複数の鉱山があり、そのなかでも特に栄えた「軽井沢銀山」の発見は戦国時代後期といわれます。会津藩の財政を支えつついくたびか繁栄の時代を繰り返し、明治時代中期まで盛んに採掘されていたという日本屈指の銀山でした。



銀山王・古河市兵衛

江戸～明治期の実業家で、複数の鉱山経営を手がけるなか現在の古河財閥を興した人物。明治28年に日本が金本位制を採用したことで銀の価値は大暴落し、市兵衛が鉱山学者の大島高任と共に創業した軽井沢銀山も、明治30年にその歴史を閉じることに。



操業時の軽井沢銀山風景（明治20年代）



近年まで残されていた往時の鉱山事務所

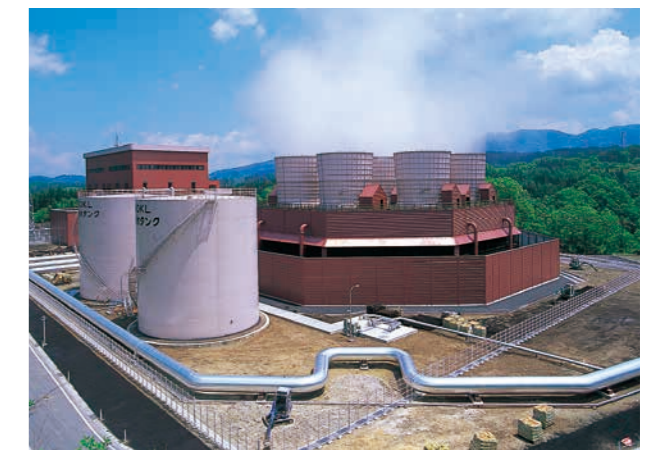
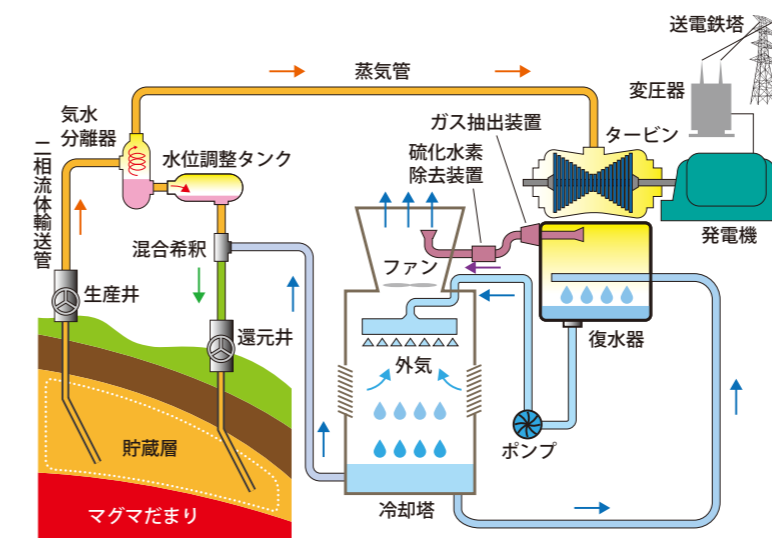
硫黄や金・銀・銅・鉛・亜鉛、白土、パーライトなど多種にわたる鉱物を産出した柳津。軽井沢銀山も最盛期には1,000棟余りの宿舎が建ち並び、歓楽街もあったほどの規模と言われていました。生活物資供給のため、町の中心部にも店が建ち並び、たいへん賑わったようです。



レンガの大煙突が  
その栄華をいまに語る

鉱山王国といわれた会津でも永祿元（1558）年の発見と、最も歴史の古い軽井沢銀山。明治期に入り大きく進んだ鉱業技術によって取り入れられた「オーガスチン精錬法」可動のため建てた溶鉱炉の大煙突は、いまでも山中にひっそりと佇んでその栄華を伝えていきます。

### 柳津西山地熱発電所の仕組み



地中のマグマで高温になった約200℃～350℃の熱水を井戸（生産井）からくみ出し、その熱水から取り出した蒸気でタービンを回して発電します。タービンを回し終わった蒸気は冷やされて別の井戸（還元井）から地下深くに戻します。



# 施策の概要

只見川に架かる赤い半月のアーチ橋は柳津町のシンボル。  
虚空蔵さまに見守られながら、人々の往来を助けてきました。  
暮らしをつなぎ縁を結び、いままでも、そしてこれからも。

柳津の

4 春

- 入学式
- 久保田三十三観音まつり
- 良寛和尚供養祭



- 博士山山開き
- 飯谷山山開き

暦

6

- うつくしま・みずウオーク
- 滝谷川アユ釣り解禁



7

- 屋内プールオープン
- 大日如来祭礼

8

- 霊まつり・稚児行列  
流灯花火大会
- 少年ソフトボール  
選手権大会



秋

9

- 西山温泉まつり
- 九月堂おこもり

10

- 会津やないづ赤べこまつり

11

- 町文化祭
- 会津やないづ新そばまつり



3

- 卒業式

2

- 会津やないづ冬まつり
- 初牛



冬 12

1

- 元朝詣り
- つな打ち(七日堂大鯉口打ち)
- 四日堂
- 七日堂裸詣り

町を学ぶ  
column

手づくり市



町内在住の木工作家による  
声かけではじまった「やないづ  
手づくり市」は、奥会津を中心  
に活動する手づくり作家のみ  
なさんが年に数回集う場です。  
自分たちで思い思いに作っ  
た品を並べ出店し、食ブースや  
ワークショップなどにもぎや  
かに行なわれています。ものづ  
くりに興味を持つ若い家族な  
どが多く集まる交流の場とし  
て、近年注目を集めているイベ  
ントです。



# 産業

ここが私たちのまち世界唯一の故郷です

まちの活力は、「生み出す」ことから始まります。気候、風土、地域性をはじめ、全てが柳津町と同じという町はありません。他の町にはないこの地ならではの皆さんの良さを大切に育てていくことが大きな魅力となり、活気がある元気なまちづくりに繋がっていきます。そこで、地元の人々にも

愛され親しまれる、その地域性を活かしたオリジナリティの追求など、生産強化に取り組み、次世代を担う後継者育成にも力を注いでいます。また、地場産業の活性化、安定した雇用の場の確保、新たな産業の創出などにより、まちと企業、そして町民が一体となって、産業振興を図っています。



### 《商工業》

地場製品の消費拡大、商品開発や販路拡大を促進し、商店街の活性化を図るとともに、事業所に対する支援や雇用の場の維持・確保に努めています。



### 《観光業》

観光関連団体との連携を密にし、より積極的かつ効果的な宣伝を行うとともに、近隣自治体と広域連携の強化による地域活性化を推進しています。



### 《農林業》

安全性を確保し、風評払拭に努めるとともに、農林産物の付加価値を更に高め、豊かさを実感できる農林業の実現に努めています。

# 健康・福祉

幸せな生活を育む心身の健康と福祉

子どもから高齢者まで、すべての町民が生きがいを持ち、明るく、安心して暮らせるまちづくりには、保健医療・社会福祉の充実はもちろんのこと、一人ひとりが思いやりの心を持ち、互いに助け合うことが大切です。

そこで、高齢化社会を迎え、高齢者の生活環境も変化していることから、まちでは、医療の充実に向けた幅広い医療サービスをはじめ、健康教室や各種学級を開催し、高齢者の日常生活に生きがいを感じることをできるよう取り組みをし



### 《高齢者支援》

高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って健康で自立した生活ができる支援体制や、施設介護が必要となった場合でも安心して暮らせる町づくりを目指しています。



### 《保健医療》

健康診断等の実施や生活習慣等の改善により、健康に対する意識の高揚を図るとともに、医療機関との密接な連携による、保健医療体制の充実に努めています。



### 《子育て支援》

家庭への経済的支援や安心して子育てができる環境を整備するとともに、次世代を担う健全な子どもの育成を図っています。



Living environment

# 生活環境

## 美しい環境を手渡そう未来の子ども達へ

まちがあつて暮らしがあり、暮らしがあつてまちがあります。「素敵なまち」とは、このまちで生活する人たちが、笑顔で毎日を送るということであり、たくさん素敵な笑顔のために、何が一番大切かを第一に考えています。

そこで、すべての町民が快適な生活を送ることができるよう、利便性と快適性を持つ、総合的な生活基盤の整備に努めています。地域の特性を活かし、将来を見据え、円滑な生活に欠か



### 《消防・防災》

地域の安心・安全を守るため、消防団や広域消防との連携を密にし、消防・防災体制の充実を図っています。



### 《道路・交通》

住民生活に密着した道路整備と安全で快適な交通確保を促進し、各種施設へのアクセスや通行時間の短縮による地域格差の是正を図っています。



### 《住環境》

ごみ処理・リサイクルを推進し、公共下水道等への加入促進により住民の安全・安心と快適な住環境づくりを目指しています。



### 《学校教育》

社会変化に対応しながらも地域に根ざした学校教育を充実させるとともに、豊かで健やかな心身の育成に努めています。

### 《文化振興》

文化財や伝統文化の保護・保存、伝統芸能の継承を積極的に進め、関心を持てるよう意識高揚を図っています。



# 教育・文化

Education and culture

## 子ども達の笑顔が私たちの生きがいです

郷土への関心や愛着を深め、学ぶ心を育み、人間性豊かな地域社会を形成することが大切です。

そこで、まちでは、夢を追いかけながら未来へ向かって羽ばたく元気な子どもたちのために、学校と家庭、地域社会が一体となつて、「未来の人づくり」に取り組んでいます。幼児教育から義務教育の一貫連携した教育環境の充実を図り、それぞれの個性と適正な能力を伸ばすために、子どもたちの自主的な活動をサ

ポートしています。

また、すべての町民がライフスタイルに合わせて学習活動に気軽に参加し、向上心を伸ばせるよう、生涯学習の理念に基づいた学習機会を提供しています。文化活動やスポーツ活動、ボランティア活動やコミュニティ活動など、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」学び続けることができる環境を整備し、それぞれの個性に応じた積極的な推進を図っています。

### 《生涯学習》

町民一人ひとりが充実した生活を送るための生きがいづくりを推進し、豊かな人間形成を目指します。





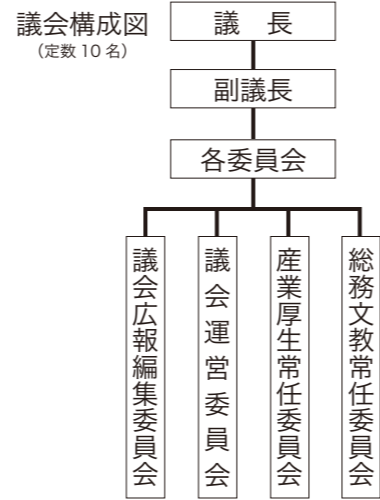
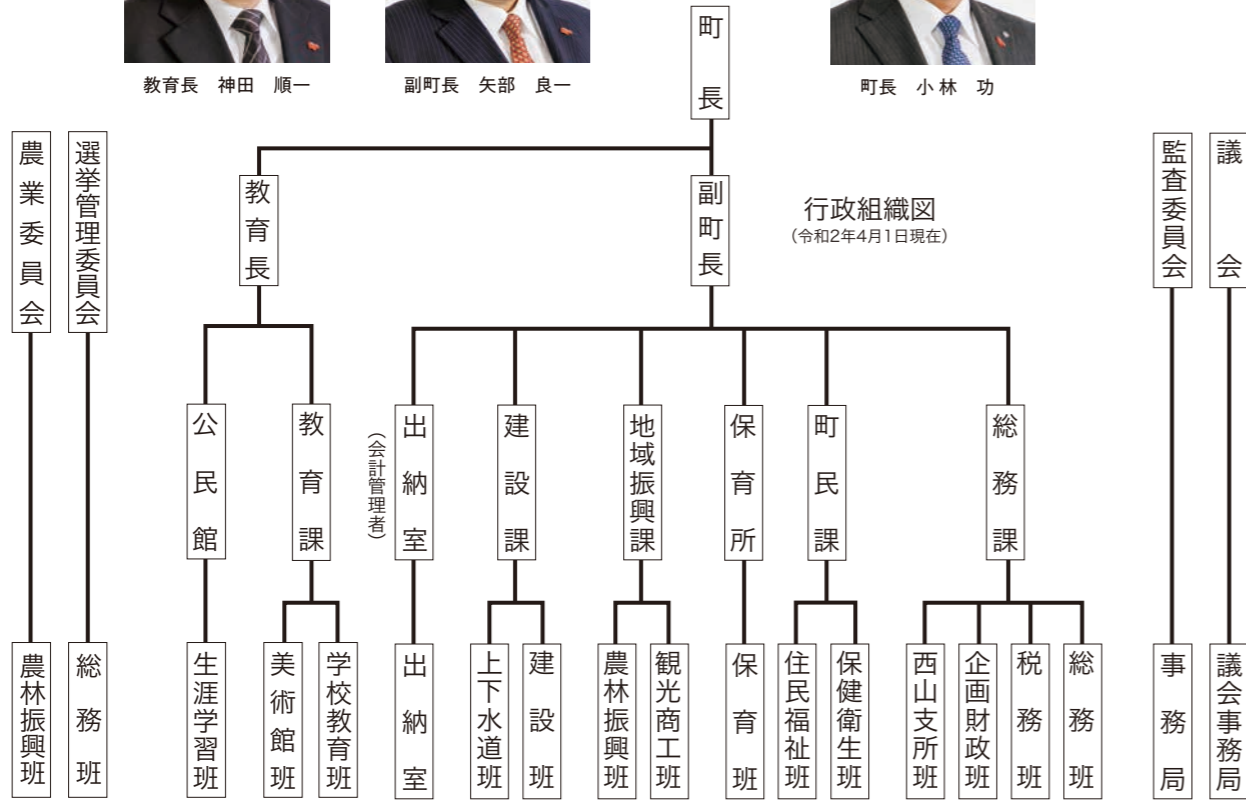
教育長 神田 順一



副町長 矢部 良一



町長 小林 功



副議長 齋藤 正志



議長 伊藤 昭一

# 行政・議会

すべての町民の幸福と快適な生活を守ることが行政の第一歩であり、基盤整備をはじめ、福祉、教育など、町民の生活に関わるさまざまな施策を計画的に進めています。

そこで、行政の情報は、町民と行政をつなぐパイプ役を果たしている、月刊広報誌「やなぎ」等で、町民の方々にわかりやすく伝えていきます。また、町民の声を町政に反映させるための議会は、年四回の定例議



会と必要に応じて臨時議会が開かれています。議会では、条例や予算、重要な行政執行について審議され、他に寄せられたさまざまな請願、陳情などについて審議、審査していきます。

誰もが「柳津町に住みたい!」、  
「柳津町に住んでよかった!」  
と思えるまちを目指して、行政・議会が一体となって、明るい柳津町の明日を築いていきます。

# 町の歩み

HISTORY OF YANAIZU TOWN

## 1942

- ▶1942◎昭和17年
- 5月20日町政施行により「柳津町」となる
- ▶1943◎昭和18年
- 郷戸原開墾の水路完成する
- ▶1944◎昭和19年
- 東京より疎開学童が来町し、西山・出倉温泉、柳津旅館等で授業を行う

## 1945

- ▶1945◎昭和20年
- 8月6日広島市に、同日長崎市に原爆投下され、8月15日太平洋戦争終戦となる
- 笠間恵氏独自の資金により、藤新道百間(約180m)の改修完工し、記念碑建立
- ▶1946◎昭和21年
- 日本国憲法公布
- 柳津小学校全焼し(2月22日)、寺院・公会堂・映画館等で分散授業を行う
- ▶1947◎昭和22年
- 地方自治制度発足。学校教育法が施行され、6・3制が発足し、国民学校は小学校となり、柳津中、西山中学校が誕生する
- ▶1948◎昭和23年
- 柳津町自治警察署創設
- 金子平、根柄巻の入植始まる
- 石坂大火となり、石坂分校と民家13戸焼失
- 柳津小学校、柳津中学校落成
- ▶1949◎昭和24年
- 西山中学校、会津農林高校西山分校等落成
- 軽井沢地区(西山村)が柳津町に編入され、軽井沢分校は柳津小学校に編入される
- 西山村公民館設置
- 本年より1月15日に成人式開催される

## 1950

- ▶1950◎昭和25年
- 西山中学校寄宿舎・教員宿舎新築
- 柳津小学校講堂(中学校兼用)落成
- 柳津小学校石坂分校落成
- ▶1951◎昭和26年
- 柳津町自治警察廃止
- 清姫橋完成
- 柳津町旅館に温泉引湯完成
- ▶1952◎昭和27年
- 砂子原に世界平和を祈願し平和塔を建立する(長坂地内)



平和を願い記念塔を建設(昭和27年)

- ▶1953◎昭和28年
- 柳津・片門発電所完成
- 中ノ橋、架替される
- 片門発電所ダム建設のため、藤橋を架替する
- ▶1954◎昭和29年
- 砂子原に会津農林高校西山分校の独立校舎落成
- 柳津簡易水道施設、砂子原簡易水道施設完成
- 柳津中学校軽井沢季節分校落成

## 1955

- ▶1955◎昭和30年
- 柳津町と西山村が合併し柳津町となり、河沼郡に属す。(面積176.99平方メートル、人口9,709人)
- 柳津保育所新設。西山小学校湯八木沢季節分校開設



合併当時の庁舎開庁式(昭和30年)



水害の後始末で屋外での食事(昭和31年)

- ▶1956◎昭和31年
- 集中豪雨により大水害発生
- 町役場新庁舎落成
- 国民健康保険事業実施
- 進学奨励資金制度を実施。柳津小学校金子平季節分校開設
- 大成沢簡易水道施設完成
- 会津農林高校西山分校全焼
- ▶1957◎昭和32年
- 農事有線放送(柳津地区)開始
- 柳津小学校増築落成
- ▶1958◎昭和33年
- 農事有線放送(西山地区)開始
- 会津農林高校西山分校舎建設
- 公営住宅団地建設(上村・長坂)
- 町敬老年金制度実施
- 台風21・22号による水害発生
- 西山小学校四ツ谷分校改築
- 同へき地集會室新築



西山中学校校舎(昭和33年頃)

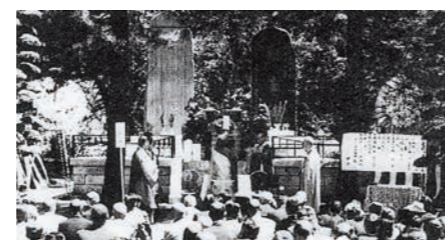
- ▶1959◎昭和34年
- 失業対策事業開始。サイレン塔建設
- 柳津中学校軽井沢季節分校廃止により、柳津中学校仮寄宿舎開設

## 1960

- ▶1960◎昭和35年
- 町役場機構改革
- ▶1961◎昭和36年
- 国民年金制度開始
- 西山小学校、西山小学校大成沢分校新築
- 柳津中学校・西山中学校増築
- 医学生奨学資金貸与制度実施
- 胃中簡易水道施設完成

- ▶1962◎昭和37年
- 町民体育館建設
- 久保田小学校大峯季節分校建設
- 町営漕艇艇庫建設される
- ▶1963◎昭和38年
- 西山診療所建設。国保事業七割給付開始(世帯主)
- 西山中学校寄宿舎建設
- 西山小学校牧沢季節分校改築
- 柳津小学校給食室建設
- 黒沢簡易水道施設完成
- 西山季節保育所開設
- ▶1964◎昭和39年
- 新潟地震
- 西山診療所業務開始
- 野老沢簡易水道施設完成
- 西山中学校高森・琵琶首季節分校廃止
- 柳津中学校寄宿舎建設

## 1965



戦没者慰霊碑が建立される(昭和40年)



合併10周年記念に町駅伝大会開始される(昭和40年)

- ▶1965◎昭和40年
- 合併10周年記念式典
- 小巻山牧野造成事業完了
- 琵琶首簡易水道施設完成
- 西山小学校四ツ谷分校教員住宅建設
- 戦没者慰霊碑建立
- 西山中学校寄宿舎増築
- ▶1966◎昭和41年
- 柳津小学校郷戸・猪倉野分校廃止し、季節分校となる
- 西山中学校体育館新築落成
- ▶1967◎昭和42年
- NHK柳津・三島テレビジョン開設
- 柳津中学校プール建設
- 魚淵公衆便所建設。海老山林道完工
- 滝の湯橋永久橋に架橋
- ▶1968◎昭和43年
- 会津高田町(現 会津美里町)と高森間が自動車道に改修される
- 本年より夏季(8月15日)に成人式が実施される

- 農業構造改善事業着手(細八地区)
- 福島地方法務局柳津出張所建設
- 久保田小学校校舎新築
- 西山診療所患者輸送車購入
- ▶1969◎昭和44年
- 只見川大洪水により大水害発生
- 柳津小・中学校プール完成
- 西山駐在所建設
- 柳津老人ホーム建設



只見川大洪水による大水害のようす(昭和44年)

## 1970

- ▶1970◎昭和45年
- 七折峠の屈折改修、舗装道となる
- 中野簡易水道施設完成
- 柳津中学校改築
- 西山小学校高森分校落成
- 西山小学校湯八木沢季節分校休校
- 西山老人ホーム建設
- 琵琶首公民館建設
- ▶1971◎昭和46年
- 柳津大橋完成
- 西山小学校体育館、西山中学校プール建設
- 柳津保育所建設
- 小巻簡易水道施設完成
- 西山小学校琵琶首分校改築
- 西山公民館建設
- 町営駐車場建設(下平)
- ▶1972◎昭和47年
- 瑞光寺橋完成
- 観光無料休憩所建設
- 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防署柳津出張所完成
- 五畳敷簡易水道施設完成
- 柳津コスモス電機工場誘致



瑞光寺橋が完成し、渡り初めが行われる(昭和47年)

- ▶1973◎昭和48年
- 国道252号線柳津バイパス開通

- 郷土の偉人大成沢出身の鈴木勝博士(元日本大学総長)の勲一等瑞宝章受賞を機に博勝公園建設
- 西山保育所新築
- ▶1974◎昭和49年
- 大竹作摩氏の銅像をつきみが丘に建設する。
- 銀山川兩岸の嵩上工事完成する(三力年を要した)
- 柳津小学校改築
- 鈴木勝氏を名誉町民に推戴
- 久保田簡易水道施設完成
- 出倉公民館、麻生公民館建設
- 豪雪



大雪のため、雪かきを行う西山小学校(昭和49年)

## 1975

- ▶1975◎昭和50年
- 合併20周年記念式典
- 町民憲章、町の花・町の木・町の鳥などを制定
- 柳津小学校体育館落成。岩坂公民館、中野多目的集會所、久保田集會所建設
- ▶1976◎昭和51年
- つきみが丘町民センター落成
- 笠間恵氏、斎藤清氏を名誉町民に推戴
- 小郷橋が架替される
- 奨学資金貸与制度改正(医学生及び保健婦)
- 川崎鉄鋼(株)会津工場誘致
- ▶1977◎昭和52年
- 柳津町誌刊行
- 柳津簡易水道施設拡張
- 柳津防雪サブセンター建設
- ▶1978◎昭和53年
- 観光のシンボル親月橋架替(重橋床式吊橋)
- 銀山大橋架橋
- 西山中学校改築落成
- 給食センターによる完全給食開始
- 牧沢簡易水道施設完成
- 町民憲章碑建設
- 西山地区にダイヤル式電話開通
- 高等学校奨学資金貸与制度はじまる
- ▶1979◎昭和54年
- 待望の柳津温泉スキー場第2リフト完成
- 塩ノ半在家遺跡発掘。
- スクールバス運行(軽井沢・塩野・猪鼻・大野・中野・小ノ川)
- 総合運動公園施設整備(体育館・艇庫完成)
- 柳津小学校藤分校落成
- 柳津小学校軽井沢・飯谷分校廃校
- (株)坂内セメント工業所誘致



地域活性化施設「やないづふれあい館」オープン（平成18年）

- ▶2006◎平成18年
- 地域活性化施設「やないづふれあい館」オープン
- 国道252号滝谷川橋開通
- ▶2007◎平成19年
- 県道柳津昭和線獅子落洞門開通
- 柳津温泉供給施設整備
- 斎藤清画伯生誕100年（記念事業の開催）
- ▶2008◎平成20年
- 柳津町総合型地域スポーツクラブ「赤ベクトータルスポーツ」設立
- 移動通信用鉄塔施設整備（長窪地区）



柳津昭和線 獅子落洞門開通（平成19年）

# 2009

- ▶2009◎平成21年
- 丑寅まつりの開催（～平成22年）
- ※マスコットキャラクター「うとちゃん」に決定



マスコットキャラクター「うとちゃん」（平成21年）

- ▶2000◎平成12年
- 介護保険制度開始
- 麻生地区簡易排水供用開始
- 皇太子ご夫妻「斎藤清美術館」ご視察
- ▶2001◎平成13年
- 郷戸地区農集排水供用開始
- 第1回「歴史と文化のやないづウォーク」開催
- 観光ボランティアガイド発足
- 27年ぶりにSL「会津只見号」復活運行



JR只見線27年ぶりにSL復活運転（平成13年）

- ▶2002◎平成14年
- 住民基本台帳ネットワーク稼動
- 細越下宅地分譲開始
- 「斎藤清アトリエ館」開館
- ▶2003◎平成15年
- 広域農道「会津パールライン」全線開通
- 公共下水道（一部）供用開始
- 野老沢農集排水（一部）供用開始
- 「地域イントラネット」運用開始
- 特養ホーム「福柳苑」開所
- 道の駅「会津柳津」オープン

# 2004

- ▶2004◎平成16年
- 飯谷大橋完成
- 大成沢地区農集排水（一部）供用開始
- 藤地区農集排水（一部）供用開始
- ▶2005◎平成17年
- 移動通信用鉄塔施設整備（砂子原地区）
- 久保田小学校閉校
- 観光休憩施設「ほっとinやないづ」「ほっとinまちなか」オープン
- 合併50周年記念式典



観光休憩施設「ほっとinやないづ」「ほっとinまちなか」オープン（平成17年）



合併50周年記念式典（平成17年）



柳津保育所完成（平成7年）



ふくしま国体「地熱の火」拒火採火式（平成7年）

- ▶1995◎平成7年
- 柳津西山地熱発電所運転開始、併せてPR館オープン
- 第50回ふくしま国体炬火「地熱の火」柳津西山地熱発電所より採火
- 柳津保育所完成
- 地熱多目的利用実証プラント建設
- 町営美術館建設開始
- ▶1996◎平成8年
- 町営美術館着工（後に町立斎藤清美術館に名称変更して平成9年10月1日開館）
- 広域農道、柳津工区の七呼トンネル猪倉野橋竣工開通式
- 元町長春日源一氏の名誉町民推戴状授与式行われる
- 西山大橋竣工、開通式
- ▶1997◎平成9年
- 「やないづ町立斎藤清美術館」開館
- 名誉町民、斎藤清画伯死去
- 磐越自動車道全線開通
- 「うつくしま音の30景」に「円蔵寺と奥の院の夕暮れに沈む鐘の音」が選ばれ知事より認定書を受ける
- ▶1998◎平成10年
- 町重要文化財に久保田正徳寺「木造聖徳太子立像」ほか2点を指定
- 高齢者生活福祉センター「のぞみ」開所

# 1999

- ▶1999◎平成11年
- 広域農道、柳津～新鶴間開通
- 地域振興券交付事業実施



皇太子・皇太子妃両殿下「斎藤清美術館」御視察（平成12年）

# 平成 1989

- ▶1989◎平成元年
- 柳津温泉スキー場夜間照明施設完成
- 国道252号線二本木地内決壊事故発生
- 第1回縄文フォーラム開催
- 西山中学校教員住宅建設
- (株)シモン柳津工場誘致
- ▶1990◎平成2年
- 西山温泉山村公園整備事業着手
- 柳津簡易水道総合整備事業着手
- 久保田・牧沢線の新牧沢橋完成
- 町農協選果施設新築
- 国道252号線二本木地内決壊箇所復旧
- 岩瀬電機(株)柳津工場誘致
- ▶1991◎平成3年
- 健康福祉プラザ・銀山荘落成し、機能訓練（リハビリ）開始
- 運動公園温泉施設完成
- 林業構造改善事業（森林公園のオートキャンプ場・サイクリングロード）完成
- 「産業廃棄物処理場設置阻止」住民運動起る
- ひとり暮らし老人に緊急通報システム導入
- 博士山が「郷土の森」に指定される
- 石坂会館建設
- 林道長窪・芝倉線着工
- ▶1992◎平成4年
- 屋内ゲートボール場「すばく 柳津」完成
- 観光物産館建設
- 桐ヶ丘分譲宅地造成
- 後継者独身住宅建設
- 柳津郵便局舎改築
- 竹久夢二・ロマン記念碑建立
- 総合行政（電算処理システム）始動
- ▶1993◎平成5年
- 観光物産館「清柳苑」、西山温泉山村公園「せいざん荘」オープン
- 柳津西山地熱発電所建設開始
- 担い手育成土地基盤整備事業着手（郷戸地区）
- 医師住宅建設
- 早ばつ

# 1994

- ▶1994◎平成6年
- 柳津デイサービスセンター開設
- 柳津町海外派遣事業開始
- 柳津保育所建設開始
- 除雪車格納庫完成（小ノ川地区）
- 農業集落排水事業着手
- 会津柳津駅無人化となる
- 長雨により、農作物災害

# 1985

- ▶1985◎昭和60年
- 藤大橋開通。県道山都・柳津線開通
- 合併30周年記念式典
- 柳津小学校石坂分校廃校
- 西山小学校（四ツ谷・大成沢分校）閉校
- B&G財団スポーツ施設無償譲渡される
- 西山小学校改築落成
- 博士林道完工
- 安久津公民館建設



国道49号藤大橋渡橋式（昭和60年）

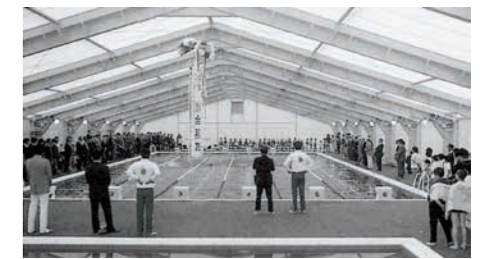
- ▶1986◎昭和61年
- 町役場庁舎現地に新築落成
- 総合運動公園施設整備（総合グラウンド夜間照明施設完成）
- 良寛和尚詩碑・銅像建立
- 移動入浴車「さわやか号」初出動
- 町情報連絡施設（防災無線）業務開始
- 野老沢簡易水道施設増設
- ふるさと小包便「ハートピア柳津・四季の味」発送はじまる
- 柳津小学校増築
- 湯八木沢会館
- 胄中会館建設
- ▶1987◎昭和62年
- 良寛和尚誕生地、新潟県出雲崎町と姉妹都市締結する
- 第三セクター会津やないづ温泉（株）設立される
- 栗原建材産業（株）会津工場操業開始
- ▶1988◎昭和63年
- 圓蔵寺境内に掘削した会津柳津温泉を各旅館・公共施設に給湯を開始
- 麻生大橋完成（名物の渡し船の役目終える）
- 芸術文化資料室開設
- 町営柳ヶ丘団地1号棟完成
- 新湯八木沢橋、中の川橋（胄中）完成
- 古屋敷会館建設
- 小柳津会館建設



麻生大橋開通により麻生の渡し船なくなる（昭和63年）

# 1980

- ▶1980◎昭和55年
- 公営住宅大平団地1号棟建設
- 西山地域住民交流センター建設
- 森林公園整備
- 柳津温泉スキー場第1リフト完成
- 総合運動公園施設整備（テニスコート全天候型4面・コートハウス・ちびっこ広場・武道館完成）
- 町営路線バス運行開始（久保田・高森・琵琶首線）
- ▶1981◎昭和56年
- 湯八木沢トンネル開通
- 会津やないづ冬まつりがはじまる
- 老人憩いの家開設
- 総合運動公園施設整備（屋内プール完成）



屋内プールオープン（昭和56年）



観月橋渡橋式（昭和53年）

- ▶1982◎昭和57年
- 総合運動公園施設整備（総合グラウンド完成）
- 柳津いこの広場（センターハウス・人工スキー場等）完成
- 広域農道（猪鼻～大野間）開通
- 柳津小学校大柳分校廃校
- 西山地区地熱調査はじまる
- (株)クリエイティスズキ福島誘致
- ▶1983◎昭和58年
- 柳津町国民健康保険直営診療所開設
- 同・医師住宅建設
- 総合運動公園施設整備（テニスコート夜間照明施設完成）
- 西山小学校高森分校休校
- 小巻会館、猪鼻会館、野老沢会館建設
- ▶1984◎昭和59年
- 総合運動公園施設整備（テニスコート全天候型4面増築完成）
- 公営住宅大平団地2号棟完成

# 柳津町 地図



【面積】175.82平方キロメートル  
 【人口】3,241人(令和2年4月1日現在)  
 男:1,596人/女:1,645人  
 世帯数:1,266世帯  
 【位置】会津地方の西部に位置し、東は会津美里町、西は西会津町と三島町、南は昭和村、北は会津坂下町に接しており、会津若松から25kmの地点にあります。  
 【歴史】千二百年の歴史がある福満虚空藏菩薩圓藏寺を中心に栄えた門前町で、七日堂裸詣りや稚児行列、おこもりなどの伝統行事が古くから行われてきました。門前町であったため古くから宿坊が軒を連ねていましたが今は旅館に姿を変え柳津温泉街となっています。また、地熱発電所がある西山地区には滝谷川沿いに開けた西山温泉があり、今も湯治客でにぎわっています。



- ▼2015◎平成27年
- 特別養護老人ホーム福柳苑増床完成(30床)



特別養護老人ホーム 福柳苑増床完成(平成27年)

- きよひめ公園オープン



きよひめ公園オープン(平成27年)

- 映画「ジヌよ、さらば〜かむろば村へ〜」全国公開
- 合併60周年記念式典
- 「個人番号(マイナンバー)制度」運用開始

- ▼2016◎平成28年
- 西山小学校に太陽光発電設備設置(10kw)
- 観光案内所完成

- ▼2017◎平成29年
- 斎藤清没後20周年記念「ムンク展」開催
- 出雲崎町姉妹都市提携30周年

- ▼2018◎平成30年
- 柳津町学校給食センター完成
- 柳津中学校、西山中学校閉校
- 会津柳津学園中学校開校
- 長坂に一戸建て定住促進住宅建設(2戸)

## 2019

- ▶2019◎令和元年
- 町内8公共施設に公衆無線LAN(Wi-Fi)整備

- 全国門前町サミットin会津柳津開催
- 出雲崎町と災害時相互応援に関する協定締結



出雲崎町と災害時相互応援に関する協定締結(平成24年)

- 第1回赤べこまつり開催
- ▶2013◎平成25年
- 防災資機材(発電機、投光機他)を全行政区に整備
- 柳津小学校に太陽光発電設備設置(10kw)
- 斎藤清美術館に太陽光発電設備設置(10kw)
- 町道下大平停車場線開通



斎藤清美術館に太陽光発電設備設置(平成25年)

## 2014

- ▼2014◎平成26年
- 「第1回うつくしまみずウオーク赤べこの里やないづ大会」開催
- 柳ヶ丘に公営住宅建設(1棟15世帯)
- 映画「ジヌよ、さらば〜かむろば村へ〜」撮影
- 健康福祉プラザ銀山荘に太陽光発電設備設置(10kw)
- 観光物産館駐車場に電気自動車急速充電器設置



観光物産館駐車場に電気自動車急速充電器設置(平成25年)

- 県道山都柳津線「沢向橋」完成



桜づつみオーナー植樹祭(平成21年)

- 光ファイバー網整備(本庁地区)
- 桜づつみオーナー植樹祭
- 戸籍事務電算化開始
- ▶2010◎平成22年
- 町民バスふれあい号 運行開始
- 運動公園グラウンド管理棟オープン
- 光ファイバー網整備(支所地区)
- 災害時応急対策業務の支援に関する協定締結

- ▶2011◎平成23年
- 東日本大震災、東京電力第一原子力発電所事故
- 新潟・福島豪雨による大水害発生



新潟・福島豪雨 只見川の様子(平成23年)

- 役場庁舎に太陽光発電設備設置(10kw)
- 柳ヶ丘団地内に一戸建て住宅建設(3戸)



柳ヶ丘団地内に一戸建て住宅建設(平成23年)

- ▶2012◎平成24年
- 県道柳津昭和線琵琶首バイパス開通



県道柳津昭和線琵琶首バイパス開通(平成24年)